

ピンチに 強い人になる

当社の製造現場で働く社員たちは、チャレンジ精神で、モノづくり力を強化・醸成しています。けれども、時には越えなくてはならないハードルに直面することもあります。ピンチとは、突然やってくるもの。そのハードルを乗り越えることで、以前よりもっと成長できた、苦難を乗り越える大切さを学んだ人たちを紹介します。

2018年に引き続き目指すのは、自ら学び、自ら考え、新たな価値の実現に向けて挑戦し続けていく人。ピンチに強くなって、そんな「自主自律」を実践する人を目指しましょう。

Part 1

社内好事例に学ぶ
あのピンチがあったから、私は成長した

Part 2

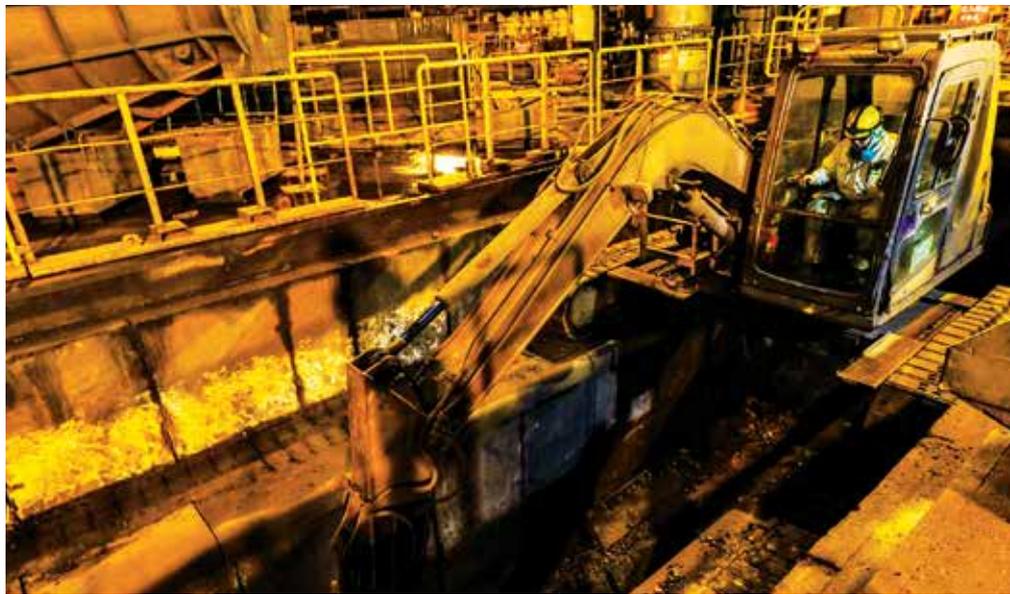
グループ会社 エムエスシー 安田美雪さんに聞く
ピンチを乗り越える方法

Part 3

松本社長が語る
2018年に濱田重工が目指すべきこと

あのピンチがあったから、私は成長した

率先して行動するハズンド
班長として
厚い信頼を獲得



▲ 耐火火物を重機で解体中の佐野班長。後でスコップではねる必要のない「さらい」のうまさか技能の高さの証し



上司から
一言

君津支店 製鉄課 4高炉樋整備
主任 小川 伸次さん

人に対してすごく優しく、思いやりのある人物です。ミーティングのときの指示が的確で分かりやすいし、場を和ませる一言も言ってくれる。仕事がやりやすいムードづくりをしてくれるので、班の結束力がより強まっています。その半面、自分にはとても厳しく、何が起きても自分の責任できちんとしなくてはいけないという決意が、日々の言動からも見て取れます。今後のさらなる成長に期待しています。



君津支店 製鉄課
4高炉樋整備 班長
佐野 司さん

● Profile

2005年入社。以来、一貫して樋整備(樋替)に従事。クレーンの補助に始まり、フォークリフト、重機、クレーンと免許を取得するごとに仕事の幅を広げ、現在は樋整備のオールラウンドプレーヤー。2012年に班長代行、2014年には班長に就任。7年前から始めたバス釣りにハマっており、50センチ超の大物を釣ることに挑戦中。

高炉の出銃口から排出される、溶銃・スラグを流す樋のメンテナンスが、私たちの班の業務です。常時、1500℃超の大量の高温溶融物を流す樋なので、不具合は一切許されません。そこで、毎日の点検に加えて、各4系統の樋のうち1系統を順番に休止させ、14日前後で耐火物の解体・施工・乾燥を行い、補修しています。

補修する際は、樋休止後に水をかけて冷やすのですが、高温の溶融物が流れていた樋の温度はなかなか下がらず、雰囲気温度は100℃以上。状況に応じて耐熱服を着用しますが、内部がものすごく蒸れて大変です。初めて現場に入ったときは、体力に

自信のあった私でも「大丈夫かな？」と不安になりました。

思いがけない班長への任命。必死に仕事を覚えた日々

程なく職場環境に慣れ、資格を取得するごとにできる業務も増えて、やりがいを感じていた頃、班長に任命されました。周りに気を使い過ぎる性格で、もともとそれほど積極的ではありません。しかも、班には私より技能が高い先輩がいました。当時28歳という年齢で、監督者が務まるか不安で、断れるものなら断りたい思いでした。しかし、自分が指示をしなければ仕事が進みません。そこで、いかなるときにも適切な指示ができるよう無我夢中で仕事を覚え、何でも率先してやるよう努めました。先輩方が助けてくれ、後輩もついてきて、班としてまとまったときは、ホッとしました。

樋替は、班のみんなで力を合わせないとできない仕事です。チームワークの良さを誇る班になれたのも、皆さんのおかげだと感謝しています。

高度な技能と感性を要する スラグトレーラーの若手エース



スラグトレーラーを運転する児玉班長。常に平常心を心掛け、安全走行



トレーラーでは、約15トンの製鋼スラグを運搬。全長はゆうに10メートルを超えます。教習所のトレーラーは一般的なセミトレーラー方式で、台車をトレーラーヘッドに背負って走行するタイプでしたが、当社のスラグトレーラーはフルトレーラータイプ。車(ヘッド)と車(台車)をドローバー(連結棒)で連結しています



君津支店 製鋼スラグ課
搬送グループ 班長
児玉 竜一さん

●Profile

2005年入社。スラグ処理グループで、タイヤショベル、天井クレーンなどの技能を習得。その運転技能とセンスにより、2010年に搬送グループに抜できされ、スラグトレーラーのオペレーターに。2014年に班長代行、2017年には班長に就任。休日は寝ていたいが、プライベートの付き合いも忙しいとか。

君津製鐵所構内において、工場で発生した溶融スラグを、製鋼スラグ処理場までスラグトレーラーで運搬する業務を担当しています。

私の場合、けん引や大型特殊免許は比較的すんなり取得できたので、「周囲が言うほどには難しくないのかな?」と思っていました。しかし、現場で初めてスラグトレーラーに乗ってみて、仰天。教習所のトレーラーは、屈折する箇所が1カ所でしたが、当社のスラグトレーラーは2カ所の屈折となるため、トレーラーヘッドのハンドル操作が台車に直接伝わらず、思うように動かせませんでした。さらに道路の凹凸でバウンドしてハンドルが取られることも。振動によって、積載している高熱のスラグが落下すると大災害につながるのです、ひとときも気を抜くことができません。

つかんだ感覚が体に染み付くまで ひたすら練習

操作の上達法は、車とルートに慣れるのみ。空き時間に広場で練習したり、先輩方

の助手席にさせてもらったりして、ハンドルを切るタイミングなどを教えてもらいました。ただ、操作には、車との相性など「感覚」の部分もあるため、教わった通りにしてもうまくいくとは限りません。自分に合ったコツをつかむまでは、とても苦労しました。今でも、熟練というわけではないので、操作技術を磨くよう日々努めています。そんな中、2014年に班長代行、昨年4月には班長に就任。班をまとめ、全員の技能向上を課題として取り組んでいます。

君津支店
製鋼スラグ課 課長
大賀 重昭さん



上司から一言

スラグトレーラーのオペレーターは、選抜されたエキスパートのみがたどり着く、技能の最終目標という位置付けです。他社でトレーラーを経験していても、最初は真っすぐにバックすることすらできずに挫折するほど、高度な技能を要します。児玉班長はボーカフェースですが、責任感が強く努力家で、不言実行タイプ。それは、職場内のカーブミラーの汚れや曇りを必ず磨くなどの行動にも表れています。若手の未習得者をリードする中心人物としても活躍してくれています。

非常作業も安全に指揮 経験豊富な頼れるリーダー



八幡支店 製鋼課
転炉B組 主任

武智 秀樹さん

●Profile

1989年入社。1年後、勢いで退職したものの「仕事に負けたくなくて、再チャレンジの精神」で再入社。製鋼課の利材作業に従事し、各種特機車両、クレーンなど幅広い技能を習得。タンディッシュ整備作業に従事した時期もある。2006年に班長、2010年に主任に就任。10歳から45歳頃まで続けたドラムが、良い気分転換に。

▲排滓(はいさい)鋼入れ替え作業で、機関車の運行操作を若手社員に指導する武智主任(写真右)

※社内報用に、特別に保護具を外して撮影しています



ポイントの信号を▶指差呼称で確認

私にとって最初の大きなピンチは、入社間もなく、特機車両や装置の運転業務に就いたとき、先輩から「おまえ、下手くそやの〜」と言われ続けたことです。とても

負けてたまるか！ 先輩を超えたくて磨いた技能

人作業が多いため、主任は全体を把握して指示を出さなければいけません。操業中は現場を回り、リスクの高い作業のときは直接指導し、時には自分で担当することもあります。

利材作業は、新日鐵住金(株)八幡製鐵所製鋼工場の操業を支援し、鉄づくりにおいて重要な生産に貢献する仕事です。高炉から溶銑予備処理設備を経て運ばれてきた溶銑とフェロクロムを原料として、求められる成分のステンレス溶鋼を作り、連続鑄造設備の工場へと送り出しています。そのため、各種特機車両やクレーン、工場設備などを運転し、製鋼エリアの各種付帯作業を広範囲にわたって行っています。メンバーは現在7人ですが、それぞれ持ち場が違い、一人作業が多いため、主任は全体を把握して指示を出さなければいけません。操業中は現場を回り、リスクの高い作業のときは直接指導し、時には自分で担当することもあります。

今では部下を指導する立場になり、相談されることも多いです。やはり自分から進んで仕事を人はうまくなるし、精神的にも成長しますね。60歳まであと10年、若い人たちを育て、技能を伝授していきたいです。

悔しくて「負けてたまるか！」と思い、先輩を超えたくて、操業のないところで練習しました。若い頃は、運転練習で操作ミスもしました。安全に操業できるよう、ひたすら運転技能を磨きました。その先輩が退職する際、「うまくなったの〜」と言われたときは、とてもうれしかったですね。



▲転炉の下で使用
する無線重機の
運転操作を指導
中(写真右)



▲天井クレーン操作の
指導(写真右)



上司から
一言

八幡支店 製鋼課
係長 篠原 賢二さん

複雑で種類が多い利材作業に精通し、経験が一番豊富で、ものすごく頑張り屋さん。イレギュラーなケースにも対応できる重要な人材です。毎朝、ミーティング開始2時間前に出社して、上司からの指示や伝達事項、現場の状況を把握した上で部下に伝える姿勢には脱帽。現場監督や指導、業務資料の作成など多忙な業務に精いっぱい尽力しています。50歳を超えたので、体には気を付けてほしいです。

20代前半で工事の責任者 厳しい環境でも、くじけず成長



▲コンプレッサーのメンテナンスを行う米澤主任

※港大橋：ユニバーサルスタジアム・ジャパンのほど近くに架かる、全長980メートルの3径間連続ゲルバートラス橋で、1974年に供用。上路(16号大阪港線)と下路(5号湾岸線)の道路を備え、大型コンテナ船が頻繁に行き交う国際航路に架かる真っ赤な姿は印象的。大阪港の玄関口のシンボルとして「浪速の名橋50選」にも選定されています



▲港大橋*の橋梁を点検する、「移動台車」のメンテナンスを当社が担当。機械装置の設備上の注意に加え、高速道路を走行する車や海の上の高所のため、メンテナンスの際、工具の落下防止対策など、安全には細心の注意を払っています

上司から
一言



大阪事業所
整備・工事
グループ長
大貝 満さん

誠実で丁寧な仕事ぶりで、点検整備もスピード感があり正確。どんなに大変な状況でも顔色一つ変えず、弱音を吐きません。トラブルになる設備には癖のような弱点がありますが、米澤主任は急所を押さえて点検することで、トラブルを回避。責任者として、現場任せにせず自分の目で確認し、対話を重ねてすべてを把握しています。だからこそ、お客さまから「米澤主任にお願いしたい」と、よく指名が掛かりますが、健康には気を付けて今後も活躍してほしいです。

20代の新人の頃から、「現場責任者」または「施工者」として、全国数々の文化施設・舞台装置のメンテナンス業務に従事してきました。現場指揮する際は、協力会社の社員に作業内容をしっかり伝達し、安全に点検・工事を完遂してもらうことが前提。しかし、経験や知識が少なく未熟だった頃は、点検・工事作業でよく行き詰まりました。そんなときは上司に相談し、アドバイスを受け、「やってみる。大丈夫、やれるから」と支えていただきましたね。社内外のベテランの知識を吸収し、勉強を重ね、がむしやりに働き続けた記憶があります。



大阪事業所
整備・工事グループ 主任
米澤 宏倫さん

●Profile

1995年入社。主に、文化施設・舞台装置のメンテナンス、クレーンの点検業務に従事し、最近では、大阪製鐵(株)の修繕工事にも対応している。2007年に班長、2012年には主任に就任。気分転換法は、日頃のゴルフ練習と、職場の上司とゴルフでラウンドすること。

丁寧・確実なメンテナンスで 設備の安全を支える匠へ進化

コミュニケーションは得意なので、経験不足については、「この段取りで仕事をしますが、問題ないですか？」と上司・先輩にその都度確認し、「安全・効率上、こうしたほうが良い」と返答をもらうことでカバーしました。他の人の業務の進め方は新たな発見になりますが、何事も自分で考えて応用することで身になるので、部下にも同じことを伝えていきます。

整備作業は、味覚以外の感覚を集中させる世界。テストハンマーを使用し、モノの動きや機器の作動音を確認しながら、スパナをかけて部品が緩んでいないか入念に確認するなど、トラブル防止のため定期的なメンテナンスが重要です。たとえお客さまが何かを主張しても、「不具合があるので、こうしなければいけない」と言える信頼関係を仕事で構築しています。今後3人の職場の仲間と共に頑張り、大阪事業所の整備・工事ブランドを高めていきたいです。

慣れ親しんだ職場から異動し 一から新しい技能を習得



▲築炉技能の習得のため、練習を重ねた場所。現在、福井主任はここで後輩の育成にも尽力



君津支店 窯炉整備課
主任

福井 典彦さん

●Profile

2000年入社。君津支店製鋼課の2製鋼工場および1製鋼工場で約13年間、利材に従事。2013年、窯炉整備課に異動。すぐに2級築炉技能士免許を取得し、それまでの職種とは異なる技能を短期間で習得。2016年、主任に就任。年に1回は家族旅行に出掛け、国内はほとんどを制覇。



上司から
一言

君津支店
窯炉整備課
課長 入江 郁夫さん
係長 金子 哲也さん

(写真左から)

一言で言うなら「福井に任せておけば安心」に尽きます。何事も非常に前向きに捉え、与えられた環境の中で最大限の努力をしている姿に、いつも感心しています。新規の作業においても、私たちが口にする前に作業手順書の作成、部下への指導に着手しているなど、自主性、行動力も抜群。また、部下への指導もユーモアを交えるなどして、“その人”に伝えることに重点を置いた対応をしてくれる、信頼できる人物です。

厳しいコークス職場でも ポジティブ精神でチャレンジ

君津製鐵所のコークス炉のメンテナンスが、濱田重工への移管で実施するようになった2013年4月に、上司から要請があったため、窯炉整備課への異動を決めました。入社以来ずっと製鋼課利材で、さまざまな免許を取得し技能を習得してきましたが、窯炉整備課では、その経験は一切通用しません。ピンチを迎えたこのとき、「ならば、新しいことへのチャレンジを楽しもう」と奮起しました。さすがに、高熱の作業環境に対しては、体力が続くかなという一抹の不安はありましたが、やってやろうという気持ちになりました。

れんがに触ったことがない、ということからのスタート。熟練者の指導を受けた

後、休憩中など時間を見つけては、積んでは、ばらすをひたすら繰り返しました。溶射をはじめとした二連の技能には向き不向きがあり、どんなに努力してもできない人もいます。幸い、私は向いていたようです。また、懸念していた熱さに対して、高温の窯に体を入れるときの角度といったコツを次第に覚え、負担を極力軽減できるようになりました。

現在は、新しく立ち上がった4炉を担当しています。過去の蓄積がないので、安全・品質・コストに見合った補修方法・手順を実践しながら体系付けている段階です。大変な面もありますが、自分たちで考え、自分たちに合った方法で行えることが、やりがいにつながっています。きちんとした補修を行えば炉は長持ちする。そうした結果がストレートに出ることも、窯炉整備の醍醐味のひとつだと思います。

合格率は約9割！ 築炉技能士の資格取得で品質を高める



▲筆記試験対策の勉強会で指導する加来主任



実技試験では、指定の形状にする築炉作業を行うため、体で覚えるまで練習を重ねるのみ。同じ姿勢で長時間作業をするため、腰にはかなりの負担が掛かります

現場では電動工具を使いますが、実技試験はすべて手作業。とにかく反復練習しがなく、私自身も試験前は何度も練習して臨みました。終業後や休日に勉強するのは大変ですが、築炉工の原点を学ぶことができ、工具の使い方も上達して現場で生かされます。今では教える立場になり、メンバーそれぞれの作業の癖を見極めて、ポイントを指導するようになりました。

試験で求められるのは、仕上がりの「過程」と、制限時間内できちんと完成させられるかの「精度」。

製鋼工場内の耐火物補修には、築炉技術が必要です。技術を磨き、顧客からの信頼を高めるために、私たちの職場では「築炉技能士1級・2級」の資格取得を推進しています。有資格者は現在、22人中、1級15人、2級6人。合格率は9割近くあり、一度落ちても2回目では必ず全員が合格しています。

実技は反復練習がカギ。過程と精度が厳しく審査される



光支店 製鋼課
築炉整備班 主任
加来 幸博さん

●Profile

1988年入社。高校卒業後、県外の繊維会社を経て帰郷し、濱田重工光支店に就職。一貫して製鋼課の業務に従事する。2008年、主任に就任。1級築炉技能士。2011年から築炉技能士の資格取得に向けた指導を始める。月2、3回、海釣りするのが何よりの息抜きで、大物が釣れたときは充実感いっぱい。

上司から一言



光支店
製鋼課 課長
城 幸夫さん

チャレンジ精神が旺盛で、「できません」とは言いません。率先して行動してくれるので、一番頼りにしています。ミスがあってもカバーできるし、仕事に対する姿勢がすごいんですよ。私も現場が長かったので、以前は何でも自分で確認しないと気が済まなかったのですが、今は非正常作業も安心して任せられる。加来主任のおかげで、築炉の品質レベルが上がり、チームがうまくまとまっています。

せられるかの「精度」。試験の時期は蒸し暑く、体力的にも精神的にも厳しい条件の中、みんな頑張っています。

トラブルなどのピンチを防ぐためには、専門知識や技術が重要です。主任に責任を感じています。できるだけ現場を回ってみんなに声を掛け、安全指導・安定操業に努めながら、今後も職場全体で協力して資格取得をサポートしていきます。

コミュニケーションを通して 経験や認識の違いを超える



▲後輩に作業指示をする
内田さん(写真中央)



産機事業部
製造グループ
内田 俊介さん

●Profile

2008年入社。シップローダー、クレーンなどの仕上げ・組み立て業務に従事。札幌ドームのホヴァリングステージなどメンテナンス業務も担当。アーク溶接の特別教育、粉じん作業の特別教育、玉掛け技能講習、クレーン運転士免許、職長・安全衛生責任者教育、仕上げ2級の資格を取得。休日にはバスケットボールやボウリングでストレスを発散。



上司から
一言

産機事業部 製造グループ
主任 **脇野 正輝さん**

私たちのグループの中では、若手のリーダー的な存在です。周りの状況をよく見ているし、後輩たちの作業状況も把握していて視野が広い。自分の考えを持ち、意思表示があるので仕事を任せやすいと感じています。また、設備の異音を発見するなど、感覚の鋭さが仕事に生きています。作業指示を受けて動いていた立場から、今は一人で現場に出て指示をする役割に移行している時期。経験値を積んで成長してほしいと願っています。

心を込めたコミュニケーションで 協力会社社員と信頼関係を築く

札幌ドームのホヴァリングステージでは、協力会社の作業者と共に点検業務をしています。一昨年から一人で現場を担当するようになり、初めのうちは年長の作業員

昨年初めて海外出張を経験し、韓国で製品検査を担当しました。国が違えば、言葉だけでなく製品に求める精度も違い、現地のスタッフに指示するのはとても難しいものでした。手直しをお願いしたら、機嫌が悪くされたことも……。通訳を通して何度も粘り強く伝え、お客さまが求めるクオリティーについて説明し、納得してもらうまでに1時間かかったこともあります。日本では当たり前なことでも、認識の違いがあると、なかなか気持ちが伝わりません。諦めずに伝え続けることが大事だと実感した出来事でした。



▲ブリーの軸を測定する内田さん

の方に対する依頼や指示の出し方に悩みました。しかし、分からないことは上司や先輩に電話で相談し、不器用ながらも心を込めて伝えていくうちに、信頼関係ができて仕事がしやすくなりました。

もともと人見知りですが、コミュニケーションが取れていると指示も伝えやすくなると感じます。そのため、今では初対面の人も趣味などの共通点を見つけて、積極的に会話をするようにしています。

ピンチを乗り越える方法

「絶対できる」「いつかは勝てる」
その信念で自己ベストに向け、
日々練習

**初マラソンに惨敗。
その悔しさは一生忘れない**

小中高時代は器械体操、大学ではモダンダンスに取り組んでいた安田さんが走り始めたのは、新日鐵住金(株)健康保険組合のインストラクターになってから。体力をつけようという軽い気持ちからだったそうです。その後、ご主人のジョギングに付き合うように。

「でも、ついていけない。それで、私も速く走れるようになりたいと思い、本格的に練習を始めました」



当時、新日鐵住金(株)の陸上同好会のコーチだったご主人に練習メニューを作ってもらい、1カ月後に出場した10キロのレースで入賞。その後も好成績をたたき出し、なんと1年後には、東京国際女子マラソンの参加資格を獲得するまでに力がつきました。そして、初マラソンに選んだのが、その東京国際女子マラソンでした。

「結構走れると思っていたのですが、30キロ以降全く足が動かなくなって……。衝撃でした」
なんとかゴールはしたものの、完走者の中のブービー賞。

「悔しかったですね。それから『マラソンをなめてはいけない』と気持ちを入れ替え、練習量を増や

安田 美雪さん 株式会社エムエスシー スポーツインストラクター

●Profile

日本女子体育大学体育学部体育学科卒業。新日鐵住金(株)健康保険組合を経て、2013年に濱田重工(株)グループ会社の(株)エムエスシーに入社。スタジオリッスンでエアロピクスやヨガなどの指導を行っている。陸上競技の長距離選手(新日鐵住金「君津陸上同好会」所属)として、さまざまな大会で好成績を記録中。

陸上競技の長距離選手として活躍されている、(株)エムエスシーの安田美雪さん。「一流アスリートに迫る好記録の裏には、たくさんの悔しさや、日々の積み重ねがあります。挫折しそうなとき、どんな思いで乗り越えたか、強いメンタルを維持するために何を心掛けているかをお聞きしました。」

**周りに惑わされれない強い心を培い、
2時間49分51秒の記録をたたき出す**

まず掲げた目標は、サブスリーという3時間未満での完走。東京マラソンでも、男女合わせて上位3.2%前後の人しか出せない記録への挑戦です。

「ところが何回チャレンジしても届かない。自分の周りのランナーたちが次々とサブスリーを達成していく中で、私だけが置き去りにされていきました。敗因は、プレッシャーや周りの選手に惑わされて、自分の走りができなかったこと。精神的な



「いつもコツコツ前進してばかりで、自分のやってきたことをきちんと振り返るチャンスがなかなかなかったため、今回の取材は自分を見つめ直す、良い機会となりました」と安田さん

**継続によって生まれた自信が
困難を克服する原動力になる**

なぜ、諦めずに何度もチャレンジできたのでしょ
うか。

弱さが大きかったですね。失敗に対するプレッ
シャーや不安は今でも切り離せませんが、とりあえ
ずやってみようと挑戦する気持ちは、大切に持ち
続けています」

そして臨んだ2006年のつくばマラソン。当
時の自己ベストを8分更新する2時間57分48秒で
ゴールし、念願を果たすことができました。

次に掲げた目標は、2時間40分台で走ること。
この際も、あと1分が切れず悔しい思いを何度も
重ねました。しかし、果敢に挑んだ結果、国内外
のトップアスリートが集う2011年の東京マラ
ソンで、女子の部29位でゴール。「2時間49分51秒」
というタイムは、安田さんの自己ベストです。

陸上部監督から

一言

愚直に継続し、成功体験を 積み重ねることが大事



新日鐵住金株式会社
君津製鐵所 陸上部監督
安田 享平さん

●Profile

1990年代の新日鐵株陸上部の主力選手と
して、ニューイヤー駅伝をはじめ、各種マラ
ソン大会で活躍。その後、市民ランナーへ
の指導や北京・ロンドン・リオパラリンピックの
盲人マラソン日本代表コーチに就任。その
手腕が高く評価される。現在は、2020年
の東京パラリンピックでの金メダル獲得を目指
して指導に当たるほか、新日鐵住金(株)君
津製鐵所の陸上部監督として活躍中。

安田選手は、最初の10キロレースで簡単に40分を突破したので、「マラ
ソンでもすぐに3時間を突破できるだろう」と思いました。ところが、初マラ
ソンから3時間突破まで3年以上かかり、本当に苦労しました。その間、地
道な努力を怠らず、目先の結果にも腐らず、愚直に単調で孤独な練習を継
続していました。その姿勢は今も健在。走力は進化し続けています。

一方、箱根駅伝を走ったランナーたちが、実業団でマラソンを走れないこ
とが問題視されていますが、安田選手のような愚直に練習を継続する姿勢
と力が欠けており、心が弱いように感じます。

安田選手は、たとえ失敗した大会や練習中でも、良かった点を必ず見
つけ、「なぜ良かったのか」を解析。それを繰り返すことで自分の弱さを克服し、
成功する確率を高めています。失敗ではなく、成功体験に新しいことを少し
ずつ加えることが重要だと思います。

企業のインストラクターを務めながらマラソンで3時間を突破した女性は、
日本ではほぼ皆無で、安田選手は貴重な1人。そのノウハウを生かし、健康や
ランニングの素晴らしさを濱田重工の皆さんに伝えてほしいと願っています。

「絶対できる。そして、いつかはできる」と信じ
ていました。負けたり失敗したときは、大会の翌
日に思い出して、一人で悔し泣きをするこ
ともあります。でも一回で終わり。涙を流して言い訳を
しても、自分で走って結果を出さないことには意
味がないので、私は愚痴を言いません」

その精神力を支えるのは、毎朝4時半からの約
2時間、月にして600キロにも及ぶ練習です。
「天候が悪いときに嫌だなと思う日もありま
すが、一回休むと楽を覚えて休みがちになっ
てしまおうので、短時間でも毎日必ず走
ります。続けることが自信になり、その自信が挑
戦意欲につながります」

最後に、ピンチを乗り越えられるよう
な強いメンタルをつくるためには、日頃
どのようなことを

心掛ければよいか尋ねてみました。

「自分が目標に掲げたことを簡単に諦めず、継続す
る努力をしてほしい。自分の周りの状況や自分の
気持ちも日々変わりますが、それに流されず、こ
うなりたいという思いを持ち続けることが大切
です。目標をかみ砕いて、目の前のちよつとした目
標からクリアしていくという段階を踏めば、最終
的な高い目標をクリアできる日がきつときます」

そんな安田さんでも、これまで走り
に満足でき
たレースは一度もないそう。
「だから、やめられない(笑)。走りたいという気持
ちがあるうちは、レースを続けるつもりです」

安田さんの2018年最初のフルマラソンは、
2月25日開催の東京マラソン。今回のレースにも
全力で挑みます。

2018年に濱田重工が目指すべきこと



挽回可能なピンチは、緊張感となる。
過去の教訓をより良い方向へ導く原動力に

2018年もピンチに強く立ち向かうために、社長の思いと課題を聞きました。

代表取締役社長 松本豊

**目標に向かって熱い情熱を注ぐ
社員の姿勢に感激**

本特集のPart 1では、8人の社員それぞれが、仕事に熱い情熱を傾けていることに感激しました。皆さんに共通しているのは、できるまで何度も繰り返し前向きな姿勢や、与えられた仕事・立場や機会に対する責任感を持ちながら、一人で抱え込まずに、上司や周りの人とうまくコミュニケーションを取りつつ前進していることです。

安田選手のお話には、アスリートならではのすこみさえ感じました。強靱な体をつくるために、自らと向かい合い、自らに課したことを継続できるメンタルの強さをお持ちなのでしょう。東京マラソンも自信を持って、ぜひ限界に挑んでください。応援しています。

**安全最優先で行動起因の災害や
重大ヒヤリを無くす努力を**

当社の最重要課題は、「事業運営の基盤として安全を最優先に仕事を行う」ことに変わりありません。過去



◀2017年5月26日に熊本工場D棟の竣工と復旧安全祈願祭を実施。熊本工場社員一人ひとりと産機事業部、八幡支店のバックアップで早期復旧につながったことを、シリコンウェハー事業部社員と分かち合う松本社長(写真中央)



▶パトロールで社員と対話を重ねる松本社長(写真中央)

のつらい経験を二度と起こさないという強い決意の下、基本動作の確認に極めて有効な「指差呼称活動の徹底実践」に取り組んで11年。全社安全推進体制のさらなる強化のために、安全衛生推進部を立ち上げて8年。毎年、「休業災害ゼロ」を目標に掲げ、日々の活動を通して安全最優先文化の構築に取り組んできました。

2016年には、実に27年ぶりに「暦年での休業災害ゼロ」を実現できました。各種活動の継続実践の成果であり、一人ひとりの安全感性や安全意識、行動レベルが確実に高まっていると実感しています。しかし、行動起因による災害や重大ヒヤリに歯止めは掛かっておらず、昨年は休業災害が3件発生。残念ながら、必要な情報の伝達やルール・禁制事項を守ることが、社員に浸透・徹底されているとは言い難い状態です。

組織として安全活動を十分に機能させることの難しさを痛感しています。特に管理・監督者には再度、「基本の徹底なくして安全なし」を胸に刻み、適時適切な指導・指示・命令を出すとともに、「規律ある風通しの良い職場づくり」を実践していただきたいと思っています。

熊本地震の工場被災のピンチを 総合力で復旧できたことは財産

2016年の熊本地震によるシリコンウェハー事業部熊本工場の被災は、創業以来最大のピンチと言っても過言ではないほどのダメージを受けました。幸いにもお客さまのご理解と取引先のご協力を頂きながら、他部門の支援をはじめ、全社挙げての取り組みにより、約1年で被災前のレベルにまで生産体制を復旧させることができました。

復旧に向けた全社一丸のパワーを目の当たりにし、お客さまや取引先との信頼関係を改めて実感できたことが、何物にも代え難い財産になりました。また、不

測の事態を想定した、綿密なBCP(事業継続計画)の重要性を教訓として得ることもできました。この経験を生かし、今後の企業の継続性という観点からも、しっかりと対応していきたいと考えています。

安全・コンプライアンス。 人材不足などの課題解決に努めていく

ピンチ(トラブル)は、無ければ無いに越したことはありませんが、平穏な日々が続くと、いつしか私たちが持つべき課題や問題点に対して鈍感になり、手付かずのまま放置されます。いざピンチが訪れると、内在していた課題や問題が、次から次へと白日の下にさらされることとなります。従って、完璧な会社でない限り、挽回可能なピンチは私たちに緊張感を持たせ、その教訓を生かすことで、会社をより良い方向へ導く原動力ともなり得ます。

今、世の中は少子高齢化や人工知能(AI)・IoT化など大きな変化を迎えており、当社を取り巻く環境も同様です。安全体質の強化はもちろん、コンプライアンス、人材不足・育成への対応やBCP策定なども喫緊の課題です。それぞれの組織において管理・監督者の明確な指示の下、一人ひとりが課題や自分の役割を認識し、最後までやり遂げて解決につなげてほしいと思います。今年もまず、「休業災害ゼロの達成」を目標とします。繰り返しですが、「基本の徹底なくして安全なし」。このことを日々考えて実践する年としましょう。

当社は今年5月に創業120周年を迎えますが、安全・環境・防災・コンプライアンスにはころびなく、皆さんと共に笑顔で祝うことを心より楽しみにしています。2018年が皆さんとご家族にとって素晴らしい一年となることを祈念し、新年のごあいさつとさせていただきます。

見つけた！
Kirari
輝く人

Vol.31

年齢の壁なんてありません

溶接のプロを目指す
未来のリーダー

BIGBANG 20%

リズム・テンポが良くて好きです。11月に、ライブに行きました。

睡眠 50%

寝てしまえば、騒音も気になりません。

元気の
素

カレーライス 30%

母の作ったカレーが一番。カツカレーになったり、ライスがパンになったりと、変化を楽しめます！

光支店・整備・工事課

山形 瑞貴さん(22歳)

2013年4月に入社。年齢に関係なく、積極的に周囲に話し掛けることができる、高いコミュニケーション力の持ち主。免許取得にも積極的に取り組んでおり、上司からも期待されている。



TIG溶接を究めたい

私は、工場の配管整備や、クレーンのメンテナンス業務を行っています。溶接の作業が多く、溶接関係の資格は、入社2年目ですべて取りました。アーク溶接^{*1}が多いですが、主流になりつつあるTIG溶接^{*2}も究めて、任される仕事の範囲を広げたいです。

少しずつ自分で考えて作業する場面が増え、やりがいにもつながっています。



溶接がうまい先輩の技を見てまねしたり、コツを自分から聞いたりして、技を吸収！

新しいことたくさん！覚える秘訣は？

作業は毎日異なり、覚えることが多いため、新しいことはメモに残すのがポイント。似た作業があったときに、役に立ちます。分からないことは先輩に、「なぜこうなるのか？」という根拠から聞き、考える癖を付けるようにしています。

昨年10月から、コーチャーになりました。自分は慣れて分かっているけど、不慣れな後輩たちは分からないことがたくさん。危険箇所も丁寧に教えるように心掛けます。



休み時間もみんなと休憩。仕事で疑問点があれば、年齢に関係なく、すぐ質問します

ぐっすり睡眠で元気いっぱい

休日は、友人とボウリングやダーツに行くことが多いです。予定がなければ、一日中寝ることも。ストレスを感じることはほとんどありませんが、たとえ感じたとしても、寝るのが好きなので、寝ればすっかり忘れず。DVDもよく見るのですが、ジャンルを問わず、いつも気分で決めます。

遊園地の絶叫マシンも大好きです。富士急ハイランドにも、いつか行ってみたいですね。



友達と集まってわいわいするのも、もちろんリフレッシュに！

最近はやりのスイーツ男子です

休日によく、友人と広島や福岡へ遊びに行きますが、スイーツ巡りがマイブーム。つい最近、地元の周南市のカフェでも、おいしいフレンチトーストに出会いました。

アイスクリームも大好きで、お風呂上がり毎日食べます。家ではピノのアソートをよく食べていて、休みの日には一箱すべて食べてしまうことも！



甘いものは、元気が出ますね

私を応援！

誰とでも対話できる明るさが魅力

人付き合いが良く、誰とでも対話・意見交換できる、明るい性格の持ち主です。特に面倒見も良いので、切れる・さばける・動ける・はじけるリーダーとして、成長してください。



河野 勝盛主任

*1 電気アークの熱を利用し、金属材料を局部的に溶融して接合する溶接法
*2 タングステン電極を使って母材との間にアークを発生させ、その熱で母材と溶接棒を溶かして接合する溶接法

◆次号はシリコンウェハー事業部・生産管理グループのKirari輝く人をご紹介します。